

浜口陽三 濱田祐史 二人展

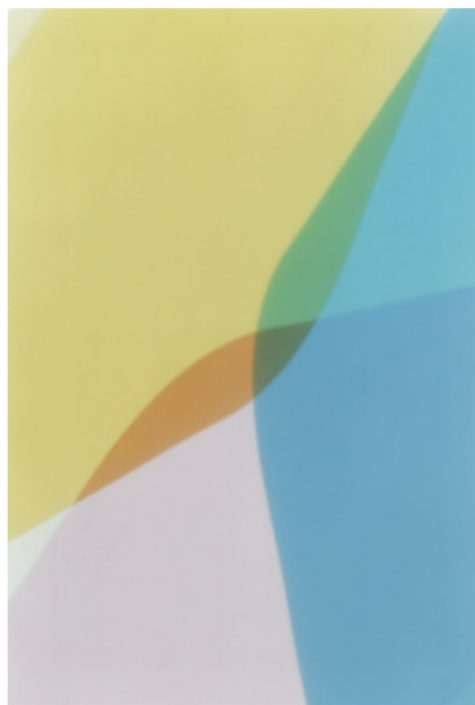
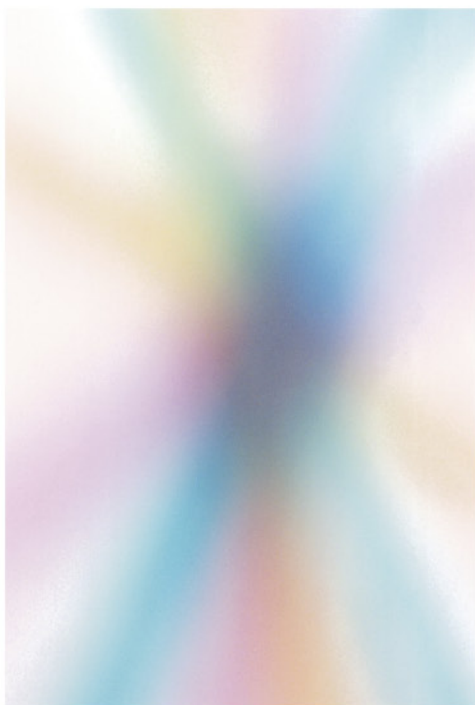
沈潜と蒸留

YOZO HAMAGUCHI
YUJI HAMADA

2021年

1月16日[土] - 4月4日[日]

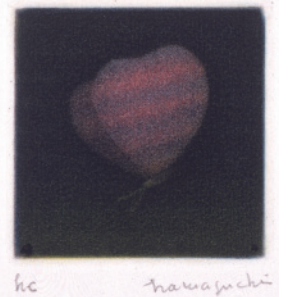
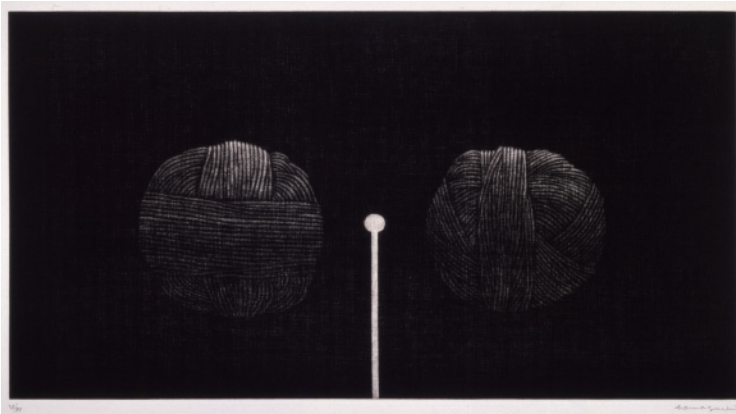
ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション



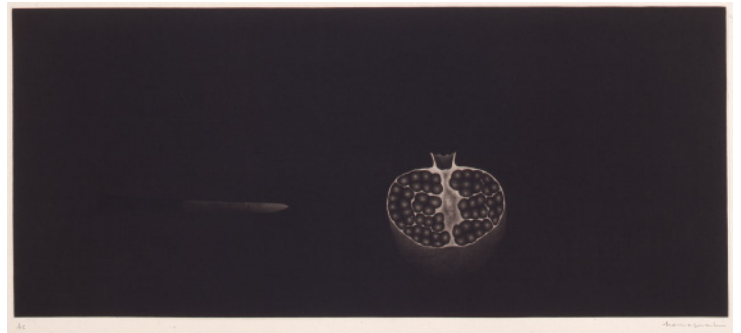
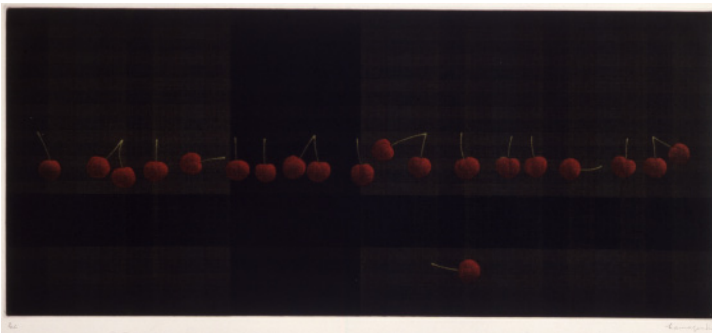
上/浜口陽三《赤い棘と黒いさくらんぼ》
1968年 カラーメゾチント、紙
47.1x62.2cm
下/濱田祐史《RGB》より
Cine Still Film 50、
Lomography Color Negative 800_01
2018年 クロモジェニックプリント
27.9x35.6cm

浜口陽三は、20世紀を代表する銅版画家の一人です。かつて印刷技術であったメゾチントを復活させ、さらに色彩を取り入れることで独自の芸術表現を確立しました。澄んだ色や微かな光を含む静謐な作品は、今日も世界中の人々を魅了しています。本展では、21世紀のデジタル社会に写真の可能性を問いかけ、偶発性を取り入れながら実験的な作品を発表する気鋭の写真家・濱田祐史を浜口陽三の銅版画と共に紹介します。柔らかな発想で新たな表現を拓ける濱田の写真は、浜口の作品にも通じます。色の三部作「C/M/Y」「R/G/B」「K」シリーズに加え、2020年制作の写真における色を考察した未発表作も公開します。浜口陽三の銅版画約25点、濱田祐史の写真約60点の構成です。

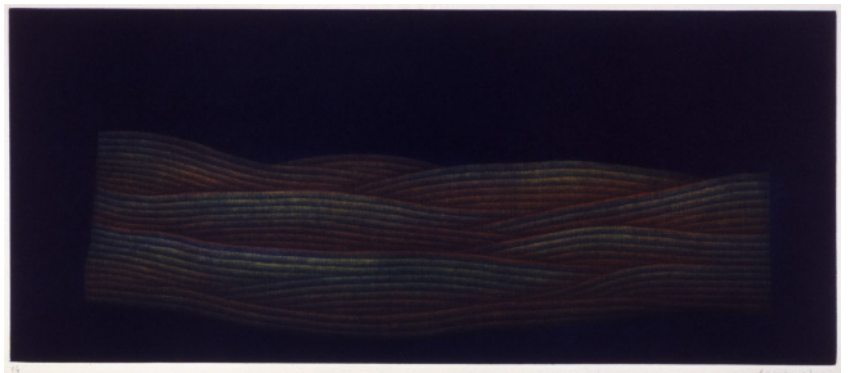
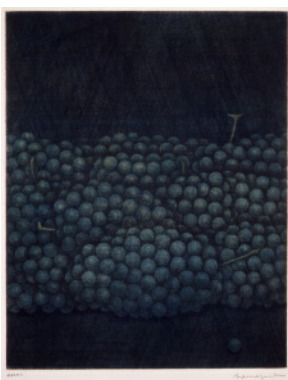
浜口陽三 YOZO HAMAGUCHI



左から《Almost Symmetric》1994年 メゾチント、紙 26.3×49.5cm
《ぶどう》1954年頃 カラーメゾチント（二色刷り）、紙 14.5×19.5cm 《蝶》(版画集『Yozo Hamaguchi』6点組) 1974年 カラーメゾチント、紙 4.6×4.7cm



左から《19と1つのさくらんぼ》1965年 カラーメゾチント、紙 23.4×53.8cm 《ざくろとナイフ》1960年 メゾチント、紙 23.5×54.1cm



左から《緑のぶどう》1958年 カラーメゾチント、紙 24.4×19.3cm 《緑の毛糸》1981年 カラーメゾチント、紙 7.7×11.7cm 《Field on Deep Blue》1985-92年 カラーメゾチント、紙 23.3×54.5cm

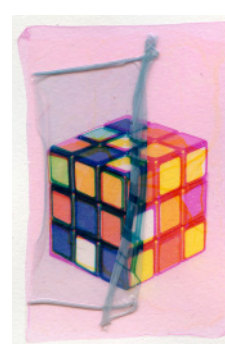
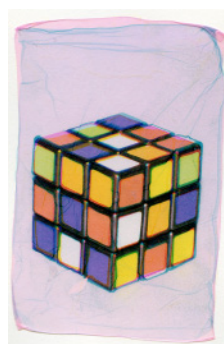
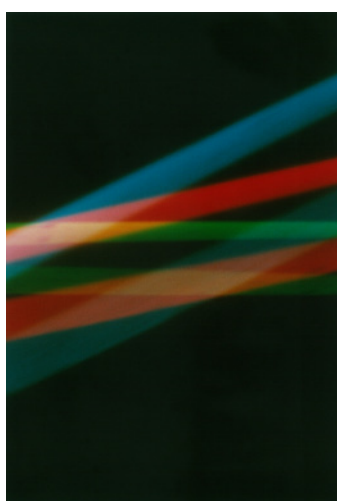
浜口陽三 (はまぐち ようぞう)

1909年和歌山県生まれ。1930年東京美術学校彫塑科を退学し、渡仏。油彩、水彩などを制作。1950年ごろから銅版画に本格的に取り組み、1953年末よりパリを拠点に制作。1955年頃、カラーメゾチント技法を開拓した。以後、東京国際版画ビエンナーレ、サンパウロ・ビエンナーレ等、数々のコンクールで大賞受賞。1981年にサンフランシスコに渡り、1996年帰国。2000年逝去。現在もエンサイクロペディア・ブリタニカの「メゾチント」の項目に、名前と作品が紹介されている。

濱田祐史 YUJI HAMADA



左から《Color Collection》より Color Collection 02、Color Collection 03
2020年アーカイバルピグメントプリント 65.0×53.0cm 《K》より K_016
2019年クロモジェニックタイプCプリント 35.6×27.9cm



左から《R G B》より Agfa Vista plus 400_01、Lomochrome Purple XR 100-400_03 2019年クロモジェニック
プリント 35.6×27.9cm 《C/M/Y_cube》より C/M/Y_cube_04、C/M/Y_cube_06、C/M/Y_cube_09 2015年
デジタルポラロイドランスファー 18.0×13.0cm

濱田祐史 (はまだゆうじ)

1979年大阪府生まれ。2003年、日本大学芸術学部写真学科卒業。東京を拠点に活動し国内外で作品発表をしている。写真の原理に基づき概念を構築し、ユニークな技法で常に新しい試みを行う。主な個展に『K』『R G B』『C/M/Y』(PGI、東京『photograph』『Primal Mountain』(GALERIE f5,6、ミュンヘン)がある。スイスのフォトフェスティバル Images Vevey (2014)、フランスのエクス=アン=プロヴァンス・フォトフェスティバル (2015) などに参加。主な写真集に、印刷技術も写真表現のひとつとした写真集『C/M/Y』(Fw:books、2015)、スイスに滞在して雪山登山の過程の記録を落している枝のみを撮影し制作した『BRANCH』(lemon books、2015)『Primal Mountain』(torch press、2019)がある。



開催概要

沈潜と蒸留 浜口陽三 濱田祐史 二人展

2021年1月16日(土)～4月4日(日)

開館時間 11:00～17:00 *土日祝は10:00～(最終入館16:30)
入館料 大人600円、大学・高校生400円、中学生以下無料
休館日 月曜日

最新の開館情報、イベントの予定は当館ホームページをご覧ください。

ギャラリートーク 濱田祐史 × 林浩平

Event

本展の開催にあわせ、評論家の林浩平先生をお招きし、ギャラリートークを行います。なおトークの様子は後日 YouTube で配信予定です。

日時 3月12日(金) 18:00～19:00

会場 ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

定員 20名(事前予約制/先着順)

参加費 800円(入館料込/当日支払い)

申込方法

メールまたは Fax にて右記宛先までご連絡下さい。メール : musee@yamasa.com Fax : 03-3665-0257

件名を「3月12日トークイベント」とし、①お名前 ②ご連絡先 ③お住まいの都道府県を明記の上お申込み下さい。定員に達し次第、受付終了いたします。

林 浩平 (はやしこうへい)

1954年和歌山生まれ。詩人、文芸評論家、日本文学研究。恵泉女学園大学で10年間特任教授をつとめ、現在、武蔵野美術大学他で非常勤講師。文学や詩の分野以外でも旺盛に批評活動を行っている。現代アートに関心を持つ林は、俳誌「白茅〔はくぼう〕」で「アート・スパイラル・ノート」という連載エッセイを担当して、これまでにサイ・トゥオンブリー、バルテュス、ボルタンスキー、ジョセフ・クーデルカ、加納光於、若林奮、イケムラレイコ、鴻池朋子、福田尚代などを論じた。美術館の企画展の立案にも関わり、東京国立近代美術館での吉増剛造展等に協力。著書：詩集『心のどこにもうたが消えたときの哀歌』、評論『リリカル・クライ 批評集 1983-2020』『ブリティッシュ・ロック思想・魂・哲学』他多数。https://mignonbis.at.webry.info/

浜口陽三 濱田祐史 二人展
Contemplation and Distillation
YOZO HAMAGUCHI and YUJI HAMADA Joint Exhibition

沈
潜
と
蒸
留

図録「沈潜と蒸留 浜口陽三 濱田祐史 二人展」

Catalog

本展の出品作品や会場風景を収録した図録を3月3日(水)より販売いたします。

価格 1,000円(税込)

発売日 3月3日(水)

編集 ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

デザイン 上田 真未

撮影 濱田 祐史

翻訳 三谷 玉枝(タイトル、挨拶文)

印刷 三永印刷株式会社

体裁 A4変形 並製本16頁

本展に関するお問い合わせ

ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション 下澤、七井(広報)

ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-7

Tel 03-3665-0251 Fax 03-3665-0257

Email musee@yamasa.com

http://www.yamasa.com/musee/

アクセス

東京メトロ半蔵門線「水天宮前」3番出口そば

東京メトロ日比谷線「人形町」徒歩8分

首都高速箱崎I.C. [浜町出口又は清洲橋出口]

東京シティエアーターミナル駐車場前

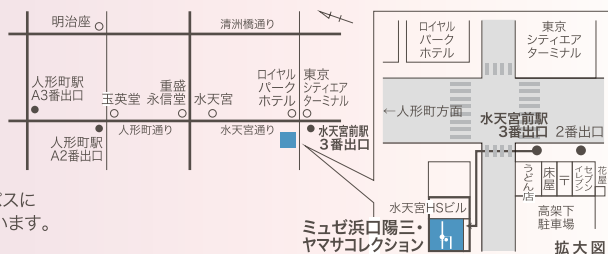


当館はぐるっとパスに参加しています。

ご来館される皆様へのお願い

①マスクのご着用 ②検温と入館カードのご記入

通常は人の少ない静かな美術館です。混雑時には、入口で少しお待ちいただく場合がございます。安心してご覧いただけるよう、換気、消毒、スタッフの健康管理など、対策をとってお待ちしております。



Muse
Hamaguchi
Yozo
Yamasa
Collection